

1.	③	11.	②	21.	④	31.	①	41.	④
2.	③	12.	③	22.	④	32.	④	42.	①
3.	②	13.	②	23.	①	33.	②	43.	④
4.	④	14.	①	24.	①	34.	②	44.	④
5.	④	15.	③	25.	④	35.	①	45.	①
6.	①	16.	④	26.	③	36.	②	46.	④
7.	①	17.	①	27.	②	37.	③	47.	④
8.	④	18.	①	28.	④	38.	③	48.	④
9.	②	19.	②	29.	①	39.	①	49.	③
10.	③	20.	①	30.	②	40.	①	50.	④

1.

解答 ③

【解説】

正解は③の『**exhibit**』です。この動詞は、美術品や商品、資料などを、公の場所（美術館、博物館、見本市など）で人々に見せるために「～を展示する、出展する」という意味で使われます。芸術作品を多くの人に見てもらう、というこの問題の状況に最も適した単語です。他の選択肢も、何かを見せたり発表したりする動詞ですが、ニュアンスが異なります。①の『**present**』は、より広く「～を提示する、発表する」という意味で、会議でのプレゼンテーションなどに使います。②の『**perform**』は、音楽や演劇などを観客の前で「～を演じる、演奏する」こと。④の『**introduce**』は、人や物事を初めて「～を紹介する」という意味です。

◆補足：名詞形は『**exhibition**』で、「展覧会、展示会」を意味します。これも非常に重要な単語です。また、『**exhibit**』自体も名詞として「展示品」という意味で使われることがあります。例文: "The artist will exhibit her new paintings at the gallery next month." (その芸術家は来月、その画廊で彼女の新しい絵画を展示する予定です。)

2.

解答 ③

【解説】

正解は③の「商品、品物」です。形容詞の 'good' (良い) に 's' が付いて複数形の『**goods**』になると、意味が変わり、販売されたり所有されたりする「商品、品物、製品」を指す名詞になります。この単語は、常に複数形で使われるのが大きな特徴です。他の選択肢は、'good' という単語から連想されるかもしれませんが、意味が異なります。①の「贈り物」は 'gift' や 'present'。②の「善意」は 'goodwill'。④の「良いこと」は 'good things' や、単に 'good' を名詞として使うこともあります。こ

のように、's' が付くだけで全く違う意味になる単語は、英語学習において注意が必要なポイントです。

◆補足：経済の文脈で、「財とサービス」を意味する "goods and services" という決まった言い方も非常によく使われます。また、「スポーツ用品」は "sports goods"、「電気製品」は "electrical goods" のように、他の単語と結びついて使われることも多いです。例文: "The store sells a variety of imported goods." (その店は、さまざまな輸入品を販売している。)

3.

解答 ②

【解説】

正解は②の「もし〜でなければ」です。接続詞の『unless』は、「もし〜でない限り」や「〜する場合を除いて」という意味を表し、ある条件が満たされない場合に、主節の出来事が起こる（または起こらない）ことを示します。これは "if ... not" とほぼ同じ意味で書き換えることができます。例えば、"I will go out unless it rains." は "I will go out if it does not rain." と同じ内容です。他の選択肢は、それぞれ異なる論理関係を示す接続詞です。①「〜なので」は理由を表す 'because'。③「〜だけれども」は譲歩を表す 'although' や 'though'。④「〜するとすぐに」は時を表す 'as soon as' です。これらの接続詞の役割を正確に理解することは、長文読解の精度を上げるために非常に重要です。

◆補足：『unless』の後ろの文は、通常、肯定文の形を取ります。'unless' 自体に否定の意味が含まれているため、"unless it doesn't rain" のように二重に否定することはありません。この点も重要な文法ルールなので、覚えておきましょう。例文: "You won't pass the exam unless you study harder." (もっと一生懸命勉強しなければ、君は試験に合格しないだろう。)

4.

解答 ④

【解説】

正解は④の「試験、検査」です。『examination』は、生徒の知識や能力を測るための「試験」や、医者が患者の健康状態を調べる「検査、診察」、あるいは何かを注意深く調べる「調査」などを意味する、少しフォーマルな響きを持つ名詞です。日本語でも「イグザミネーション」ということがありますが、それと同じです。他の選択肢は、それぞれ全く異なる意味を持つ単語です。①の「説明」は 'explanation'。②の「運動」は 'exercise'。③の「例外」は 'exception' です。これらも '-tion' や '-sion' で終わる名詞で、形が似ているものもあるので、正確に覚えましょう。

◆補足：日常会話では、『examination』の省略形である『exam』が非常によく使われます。"I have to study for my English exam." (英語の試験のために勉強しなければならない。) のように、より口語的な響きになります。動詞形は 'examine' (〜を試験する、検査する、調査する) です。例文: "All students must take a final examination at the end of the semester." (すべての生徒は学期末に期末試験を受けなければならない。)

5.

解答 ④

【解説】

正解は④の『excuse』です。この単語は、遅刻や無作法といった、比較的軽い過ちや失敗を「許す、大目に見る」という意味で使われます。また、そのような過ちに対する「言い訳」という意味の名詞としても非常によく使われます。人を呼び止めたり、その場を離れたりする時に言う "Excuse me." (失礼します) は、この単語から来ていますね。他の選択肢も重要な動詞です。①の『forgive』は、裏切りや傷つけられたことなど、より深刻な罪や過ちを、個人的な感情から「赦す」という、深い意味合いで使われます。②の『permit』は、規則や法律に基づいて、公式に「～を許可する」という意味です。③の『accept』は、提案や事実などを「～を受け入れる」という意味です。それぞれの「許す」や「受け入れる」のニュアンスの違いを理解しましょう。

◆補足：名詞としての『excuse』は「言い訳」という意味で、「言い訳をする」は "make an excuse" という決まった言い方をします。例文: "Please excuse me for being late." (遅刻したことをお許しく下さい。) "That's no excuse for your bad behavior." (それはあなたの態度の悪さの言い訳にはならない。)

6.

解答 ①

【解説】

正解は①の「制服」です。『uniform』は、特定の組織や集団（学校、会社、軍隊、スポーツチームなど）に所属する人々が着る、統一されたデザインの服装、つまり「制服」を指す名詞です。他の選択肢は、それぞれ異なる種類の服装を指します。②の「私服」は 'plain clothes' や 'casual wear'。③の「正装」は 'formal wear'。④の「運動着」は 'sportswear' や 'gym clothes' となります。これらの服装に関する語彙は、日常生活や学校生活の場面でよく使われるので、区別して覚えておきましょう。

◆補足：『uniform』は、形容詞として「均一の、同じ形の、変わらない」という意味も持っています。名詞の「制服」も、「皆が同じ形 (uni-form) の服を着る」と考えると、意味の関連性が理解しやすく、記憶に残りやすいかもしれません。例文: "All students at this school are required to wear a uniform." (この学校の生徒は全員、制服を着用することが義務付けられています。)

7.

解答 ①

【解説】

正解は①の「そのほかに、別の」です。副詞の『else』は、疑問詞 (who, what, where など) や、不定代名詞 (someone, anything など) の直後に置かれて、「そのほかに、別の」という意味を追加する働きをします。すでに述べられた事柄以外のものを指し示す際に、非常に便利な単語です。他の選択肢

は、それぞれ全く異なる意味を持つ単語が対応します。②「～でさえ」は 'even'。③「まさに」は 'just' や 'exactly'。④「代わりに」は 'instead' です。これらの副詞は、文のニュアンスを細かく調整する上で重要な役割を果たします。

◆補足：anything else? (他に何かありますか?) は、お店などで店員さんが客に尋ねる際の決まり文句ですね。"someone else" は「他の誰か」、"somewhere else" は「どこか他の場所」を意味します。また、"or else" という形で、「さもないと、そうしないと」という警告や脅しの表現になることも重要です。例文: "Is there anything else I can do for you?" (何か他に私にできることはありますか?)

8.

解答 ④

【解説】

正解は④の『look forward to』です。この熟語は、未来に起こる楽しい出来事を、わくわくした気持ちで「～を楽しみに待つ」という意味を表します。旅行、パーティー、友人と会う約束など、心待ちにしている様々な事柄に対して使うことができます。この熟語で最も重要な文法上のポイントは、'to' が前置詞であるため、後ろには名詞または動名詞（～ing 形）が来るという点です。不定詞の 'to do' の形にはならないので、注意が必要です。他の選択肢は、'look' を使った別の重要な熟語です。①の『look for』は「～を探す」。②の『look after』は「～の世話をする」。③の『look down on』は「～を見下す」です。これらは意味が全く異なるので、しっかり区別して覚えましょう。

◆補足：手紙やメールの結びの言葉として、"I'm looking forward to seeing you soon." (近いうちにお会いできるのを楽しみにしています。) や "I look forward to your reply." (お返事お待ちしております。) のように使われることも非常に多い、丁寧でポジティブな表現です。

9.

解答 ②

【解説】

正解は②の「～から電話や手紙をもらう」です。この熟語は、「～から便りがある、連絡がある」という意味で使われます。'hear' は「聞こえる」ですが、'from' を伴うことで、単に音が聞こえるのではなく、特定の人物からの「知らせ」を受け取るというニュアンスになります。連絡の手段は、電話、手紙、メールなど、様々です。他の選択肢は、似たような状況を含みますが、意味が異なります。①「～から噂を聞く」は 'hear a rumor from'。③「～の言うことを聞く」は 'listen to'。④「～から説教される」は 'get a lecture from' などで表現されます。特に『hear』と『listen to』は混同しやすいですが、『hear』が自然に耳に入ってくる感じなのに対し、『listen to』は意識して「聴く」という違いがあります。

◆補足：I look forward to hearing from you. (お返事お待ちしております。) は、手紙やメールの結びの言葉として使われる、非常に重要で丁寧な決まり文句です。このまま覚えてしまいましょう。例文: "I haven't heard from my grandmother lately." (最近、祖母から便りがありません。)

10.

解答 ③

【解説】

正解は③の『trouble』です。この単語は、心配や困難、問題などを引き起こす状況や物事を指す、非常に幅広く使われる名詞です。日本語の「トラブル」と同じ感覚で使えますね。解決すべき「問題」という意味では 'problem' と似ていますが、『trouble』の方がより、心配や面倒な状況といったニュアンスが強いです。他の選択肢は、全く異なるものを指します。①の『task』は、行うべき「仕事、任務、課題」。②の『topic』は、会話や文章の「話題、議題」。④の『treasure』は「宝物」です。これらの単語との意味の違いを明確にしましょう。

◆補足：『trouble』は、通常、数えられない名詞（不可算名詞）として扱われることが多いのが文法的なポイントです。（例: get into trouble / 面倒なことになる）また、"have trouble doing"（～するのに苦労する）という構文も非常に重要です。例文: "If you have any trouble with your computer, just give me a call."（もしコンピューターで何か問題があったら、電話してくださいね。）

11.

解答 ②

【解説】

正解は②の『make sure』です。この熟語は、「～ということを確かめる、確認する」または「間違いなく～するように手配する、必ず～する」という、二つの重要な意味を持ちます。何かを忘れたり、間違えたりしないように、念のためにチェックする、という慎重なニュアンスがあります。日常生活から仕事まで、様々な場面で注意を促すために頻繁に使われます。他の選択肢は、それぞれ異なる行為を表します。①の『look for』は「～を探す」。③の『think about』は「～について考える」。④の『try to』は「～しようと試みる」です。これらは「確認する」という行為とは明確に異なります。

◆補足：『make sure』は、"make sure of (名詞)" や "make sure (that) + 文" の形で使われることが非常に多いです。何かを依頼したり、指示したりする際に非常に便利な表現です。例文: "Please make sure that all the windows are closed before you leave."（出かける前に、すべての窓が閉まっていることを必ず確認してください。）"I called the hotel again to make sure of our reservation."（私は予約を確かめるために、再度ホテルに電話した。）

12.

解答 ③

【解説】

正解は③の『handle』です。この動詞は、難しい問題や状況、あるいは面倒な仕事などを、うまく「処理する、対処する、扱う」という意味で使われます。手を使って何かを巧みに操るイメージから、困難な状況をうまく管理する、という意味に発展した単語です。他の選択肢は、それぞれ全く異なる関

わり方をします。①の『avoid』は「～を避ける」。②の『cause』は「～を引き起こす」。④の『report』は「～を報告する」です。問題に直面した際の様々な対応を表すこれらの動詞の違いを理解しましょう。

◆補足：『handle』は、'deal with' と非常によく似た意味で使われます。名詞としては、ドアやカップの「取っ手、ハンドル」という意味があります。これも「手で扱う」部分という点で、動詞の意味と関連していますね。例文: "Don't worry, I know how to handle this kind of problem." (心配しないで、私はこの種の問題への対処法を知っています。) "This package is fragile, so please handle it with care." (この小包は壊れやすいので、注意して扱ってください。)

13.

解答 ②

【解説】

正解は②の「～に乗って」です。『on board ～』は、船、飛行機、電車、バスなどの乗り物に「乗っている、搭乗している」状態を表す表現です。'board' という単語には、名詞の「板」の他に、動詞で「(乗り物に) 乗り込む」という意味があるため、"on board" で「乗り込んでいる状態」を表します。空港などで "Welcome on board." (ご搭乗ありがとうございます。) というアナウンスを聞くことがありますね。他の選択肢は、それぞれ異なる意味を持つ前置詞や熟語が対応します。①「～のそばに」は 'beside' や 'next to'。③「～について」は 'about'。④「～の代わりに」は 'instead of' です。

◆補足：all aboard! は、船長や車掌が「全員乗船!」「出発進行!」と叫ぶ際の決まり文句です。また、比喩的に、ある計画やチームに「参加して、加わって」という意味で使われることもあります。例文: "There are more than 300 passengers on board this airplane." (この飛行機には 300 人以上の乗客が乗っています。)

14.

解答 ①

【解説】

正解は①の「体育館、ジム」です。『gym』は、'gymnasium' という単語の省略形で、二つの主な意味で使われます。一つは、学校などにある「体育館」です。バスケットボールやバレーボールなど、屋内スポーツが行われる場所ですね。もう一つは、トレーニング用の機械などが置かれている、体を鍛えるための施設「(トレーニング) ジム」です。文脈によってどちらを指すか判断します。他の選択肢は、それぞれ異なる種類の施設を指す単語です。②の「庭園」は 'garden'。③の「競技場」は、陸上競技などを行う、観客席のある屋外の施設で 'stadium' と言います。④の「博物館」は 'museum' です。

◆補足：go to the gym というと、通常は「トレーニングジムへ行く」という意味で使われることが多いです。また、学校の「体育」の授業そのものを 'gym class' と言います。例文: "I try to go to the gym three times a week to stay in shape." (私は体型を維持するために、週に 3 回ジムに行くようにし

ています。) "We played basketball in the gym after school." (私たちは放課後、体育館でバスケットボールをした。)

15.

解答 ③

【解説】

正解は③の「現在は、今のところは」です。『currently』は、「今現在」という、まさにその時点での状況や状態を表す副詞です。'now' と非常に近い意味ですが、『currently』の方が少しフォーマルな響きがあり、ニュースや公式な報告などで好んで使われる傾向があります。「現在、～しています」や「現在のところ、～です」といった文脈で活躍します。他の選択肢は、それぞれ全く異なる意味を持つ副詞です。①の「正確に」は 'exactly' や 'accurately'。②の「幸運にも」は 'fortunately' や 'luckily'。④の「頻繁に」は 'frequently' や 'often' です。これらの副詞は、文のニュアンスを決定づける重要な役割を持っているので、それぞれの意味を正確に区別して使えるようにしておきましょう。

◆補足：形容詞の 'current' (現在の) から派生した単語です。"current events" (時事問題) の 'current' ですね。'lately' や 'recently' が「最近」という過去から現在にかけての期間を指すのに対し、'currently' は「今この時点では」という「点」を指すニュアンスが強いです。例文: "The cause of the accident is currently under investigation." (その事故の原因は、現在調査中です。) "He is currently working on a new project." (彼は現在、新しいプロジェクトに取り組んでいます。)

16.

解答 ④

【解説】

正解は④の「～に加えて、～の他に」です。『besides』は、前置詞として「～に加えて、～の他にも」という意味で使われ、既にあるものに、さらに別の要素を追加することを示します。'in addition to ～' と非常によく似た意味です。他の選択肢は、それぞれ全く異なる意味を持つ単語や表現です。①の「～のそばに」は 'beside'。③の「～を除いて」は 'except'。②の「～にもかかわらず」は 'despite' や 'in spite of' です。特に①の 'beside' と、この 'besides' は、's' が一つ付くだけで意味が全く変わってしまうため、絶対に混同しないように注意が必要です。これはテストで頻出の、非常に重要なポイントです。

◆補足：『besides』は、副詞として文頭や文末に置かれ、「その上、さらに、おまけに」という意味で使われることもあります。例文: "Besides English, can you speak any other languages?" (英語の他に、何か他の言語を話せますか?) "I don't want to go out because it's too cold. Besides, I have a lot of homework to do." (寒すぎるから外出したくないんだ。その上、やるべき宿題がたくさんあるからね。)

17.

解答 ①

【解説】

正解は①の『fantastic』です。この形容詞は、「すばらしい、素敵な、ものすごい」という意味で、何かを絶賛する際に使われる、非常にポジティブで感情的な言葉です。期待をはるかに超えるような、非現実的なほど素晴らしい、というニュアンスを含みます。他の選択肢は、むしろ「普通」であることを示す単語です。②の『normal』は「標準的な、普通の」。③の『regular』は「規則的な、いつもの」。④の『common』は「よくある、共通の」といった意味です。これらは『fantastic』とは正反対の概念を表しますね。

◆補足：『fantastic』は、'wonderful', 'amazing', 'terrific', 'excellent' などと同じように、何かを褒める際の語彙として非常に役立ちます。これらの単語を使い分けることで、表現がより豊かになります。もともとは 'fantasy' (空想) から来た言葉で、「空想的なほど素晴らしい」というのが元のイメージです。例文: "We had a fantastic time at the party last night." (昨夜のパーティーは、ものすごく楽しかったです。)

18.

解答 ①

【解説】

正解は①の「他方では、その一方で」です。この表現は、前の文で述べた事柄とは異なる、あるいは対照的な視点や事実を導入する際に使われる接続副詞句です。二つの異なる側面を比較・対比して、「片や～だが、もう一方では…だ」と論を進める時に非常に役立ちます。他の選択肢は、それぞれ異なる機能を持つ接続詞句です。②「その代わりに」は 'instead'。③「要するに」は 'in short' や 'to sum up'。④「その上、さらに」は 'in addition' や 'besides' です。文章の論理的な流れを読み解く上で、これらの表現が持つ役割を正確に把握することはとても大切です。

◆補足：しばしば、一つ目の事柄を述べる際に "On the one hand, ..." を使い、それに対比させる形で "On the other hand, ..." と続けることがあります。ただし、"On the other hand" は単独で使われることも多いです。例文: "Living in the city is exciting. On the other hand, the cost of living is very high." (都会での生活は刺激的だ。その一方で、生活費は非常に高い。)

19.

解答 ②

【解説】

正解は②の『punish』です。この動詞は、規則を破ったり、悪いことをしたりした人に対して、罰として何か不快なことや苦痛を与える、つまり「～を罰する、懲らしめる」という意味で使われます。法律に基づいて罰金や懲役を科すことから、親が子供におやつを抜きにするようなことまで、幅広い「罰」に使うことができます。他の選択肢は、生徒への対応として考えられる別の行動です。①の『scold』は、「(言葉で) ～を叱る」という意味です。罰を与えるのではなく、言葉で注意することで

すね。③の『forgive』は「～を許す」。④の『ignore』は「～を無視する」という意味です。これらの動詞が表す対応の違いを理解しましょう。

◆補足：名詞形は『punishment』（罰、処罰）です。"punish A for B" の形で、「B の理由で A を罰する」と表現することが多いです。例文: "The teacher punished the students for cheating on the test."
(先生は、テストでカンニングしたことで生徒たちを罰した。)

20.

解答 ①

【解説】

正解は①の『butterfly』です。この単語は、その美しい羽で知られる昆虫、「蝶」を指します。"butter" (バター) と "fly" (飛ぶもの) が組み合わさった面白い名前ですね。他の選択肢も、それぞれ特定の昆虫を指す単語です。②の『dragonfly』は「トンボ」です。"dragon" (竜) が付いているのが特徴的です。③の『firefly』は「ホタル」です。"fire" (火) のように光ることからこの名前がついています。④の『ladybug』は「テントウムシ」を指します。これらの昆虫名は、絵本や自然に関する話題でよく登場するので、覚えておくと表現が豊かになります。

◆補足：have butterflies in one's stomach (直訳：お腹の中に蝶がいる) という面白いイディオムがあります。これは、試験の前や大事な発表の前などに感じる「さわさわして落ち着かない、緊張する」という気持ちを表す、非常によく使われる表現です。例文: "We saw a beautiful blue butterfly in the garden." (私たちは庭で美しい青い蝶を見ました。)

21.

解答 ④

【解説】

正解は④の『reasonable』です。この形容詞は、値段について使われる場合、「(価格が) 手頃な、高すぎない」という意味を表します。単に「安い」というだけでなく、「品質や価値に見合った、納得のいく」という、理にかなった価格であるというポジティブなニュアンスを含みます。他の選択肢を見てみましょう。①の『expensive』は「高価な」、③の『high』も値段が「高い」ことを表し、逆の意味です。②の『cheap』は「安い」ですが、時として「安っぽい、品質が悪い」というネガティブな響きを持つことがあります。その点、『reasonable』は質も悪くない上で値段が手頃だ、という場合に最適な単語です。

◆補足：『reasonable』の元々の意味は「理性的な、道理にかなった」です。'reason' (理性、理由) の形容詞形ですね。この中心的な意味から、「(要求などが) 妥当な」や「(人が) 分別のある」といった意味にも発展します。例文: "The lunch set at this restaurant is delicious and the price is very reasonable." (このレストランのランチセットは美味しくて、値段もとても手頃だ。)

22.

解答 ④

【解説】

正解は④の『plastic』です。この単語は、名詞として「プラスチック、ビニール」を指しますが、形容詞として「プラスチック製の」という意味でも非常によく使われます。この問題では、買い物袋(shopping bag)を修飾する形容詞として使われていますね。他の選択肢は、それぞれ異なる素材を指す単語です。①の『paper』は「紙」。「a paper bag」は「紙袋」です。②の『metal』は「金属」。③の『glass』は「ガラス」です。これらの基本的な素材名は、身の回りのものを説明する上で欠かせないので、しっかり覚えておきましょう。

◆補足：近年、環境問題との関連で『plastic』という単語をニュースで目にする機会が非常に増えました。「plastic waste」(プラスチックごみ)や「plastic pollution」(プラスチック汚染)などは、現代社会の重要な課題となっています。名詞としての『plastic』は、通常、数えられない名詞として扱われます。例文: "We should try to reduce our use of single-use plastic products." (私たちは、使い捨てのプラスチック製品の使用を減らすように努めるべきだ。)

23.

解答 ①

【解説】

正解は①の「(真実・過ちなどを)認める」です。この動詞は、自分にとって不都合な事実や、犯してしまった過ちなどを、しぶしぶ、あるいは正直に「(事実だと)認める」という意味で使われます。また、「(入場・入学などを)許可する」という意味でも使われます。この問題では、前者の意味が問われています。他の選択肢は、それぞれ異なる態度を表す動詞です。②の「～を許す」は 'forgive' や 'permit'。③の「～を断る」は 'refuse' や 'reject'。④の「～を否定する」は 'deny' で、『admit』の対義語にあたります。この 'admit' と 'deny' の対比は非常に重要です。

◆補足：「入場・入学を許可する」という意味では、「He was admitted to a famous university.」(彼は有名大学への入学を許可された。)のように、受け身の形で使われることが多いです。名詞形は 'admission' で、「入場、入学、入場料」などの意味を持ちます。例文: "She admitted that she had made a mistake." (彼女は自分が間違いを犯したことを認めた。)

24.

解答 ①

【解説】

正解は①の『leave』です。この動詞は、「(ある場所に物を)置いたままにする、置き忘れる」という意味で使われます。どこに忘れたかが分かっている場合に使うのがポイントです。他の選択肢も「忘れる・なくす」に関連する重要な単語で、使い分けが非常に重要です。②の『forget』は、記憶から何かが抜け落ちる「(～を)忘れる」や、「(～するのを)忘れる」という意味で、主に頭の中の問題を指します。③の『lose』は、どこへ行ったか分からなくなってしまった「～を失う、なくす」という意味で

す。④の『drop』は「～を落とす」という動作を指します。「電車の中に」という場所が特定されているこの文脈では、『leave』が最も適切です。

◆補足：『leave』には、他にも「(場所を) 去る、出発する」という非常に重要な意味があります。例えば、"The train leaves at ten." (その電車は 10 時に出発する。) のように使います。文脈によって意味が変わる多義語なので、注意しましょう。例文: "I think I left my smartphone on the table at the restaurant." (レストランのテーブルにスマートフォンを置き忘れてきたと思う。)

25.

解答 ④

【解説】

正解は④の「偶然～する」です。この表現は、"happen" が持つ「起こる」という意味から少し発展して、「(予期せず) たまたま～する、偶然～する」という意味で使われます。意図したわけではないけれど、偶然にも何かが起こった、という状況を表すのに便利なフレーズです。他の選択肢は、それぞれ全く異なる意味の表現です。①「～する必要がある」は 'need to do' や 'have to do'。②「～することになっている」は 'be supposed to do'。③「～しようと試みる」は 'try to do' です。これらの助動詞や熟語の機能の違いをしっかりと理解しておきましょう。

◆補足：Do you happen to know ...? (ひょっとして～を知っていますか?) や "I happened to see him at the station." (私は駅で偶然彼に会った。) のように、日常会話で意外とよく使われます。この表現を知っていると、偶然の出来事を自然に表現できるようになります。例文: "I happened to find a nice little cafe on my way home." (家に帰る途中、偶然すてきな小さなカフェを見つけた。)

26.

解答 ③

【解説】

正解は③の『sailor』です。この単語は、船で働き、船を操縦する人、つまり「船乗り」や「船員、水夫」を指す名詞です。動詞の 'sail' (帆走する、航海する) に、人を表す接尾辞 '-or' が付いた形ですね。特に、ヨットや帆船、あるいは海軍の軍人などを指すことが多いです。他の選択肢は、それぞれ異なる職業を指す単語で、スペルが似ているものもあるので注意が必要です。①の『tailor』は「仕立て屋」です。服を作る職人さんですね。②の『soldier』は「兵士」を指します。陸軍の軍人などを指すことが多いです。④の『seller』は「売り手、販売員」です。これらの職業名は、物語や歴史の話などでよく登場するので、区別して覚えておきましょう。

◆補足：アニメや漫画のキャラクターで「セーラー服」(sailor suit) がお馴染みですが、これは元々、イギリス海軍の船員たちの制服がデザインの元になっていることから、その名が付けました。このように、身の回りの言葉の語源を調べてみると、単語の記憶が定着しやすくなることがあります。例文: "The old sailor told us exciting stories of his voyages." (その老いた船乗りは、私たちに彼の航海のわくわくするような話をしてくれた。)

27.

解答 ②

【解説】

正解は②の「記念日」です。『anniversary』は、過去の特定の日に起こった重要な出来事を、毎年同じ日付に祝う、その日のこと、つまり「記念日」を指します。特に、結婚記念日 (wedding anniversary) や、創立記念日 (founding anniversary) など、個人的なものから組織的なものまで幅広く使われます。他の選択肢も「年」に関連する言葉ですが、意味が異なります。①の「毎年の給料」は 'annual salary'。③の「年次報告書」は 'annual report'。④の「年度末」は 'the end of the fiscal year' などで表現されます。形容詞の 'annual' (年に一度の、毎年の) と関連付けて覚えると良いでしょう。

◆補足：記念日の数え方は、"the 10th anniversary" (10 周年記念日) のように、序数 (first, second, third...) を使うのが一般的です。例文: "My parents are going to travel to Hawaii for their 20th wedding anniversary." (私の両親は、20 回目の結婚記念日にハワイへ旅行に行く予定です。)

28.

解答 ④

【解説】

正解は④の『score』です。この単語は、スポーツの試合やゲーム、あるいは学校のテストなどにおける、総得点や点数を表す最も一般的な名詞です。日本語の「スコア」と同じ感覚で使うことができます。他の選択肢も、試合やテストに関連する重要な単語です。①の『goal』は、サッカーやホッケーなどで、ボールやパックがゴールに入ること、またそれによる得点を指します。②の『point』は、得点を構成する個々の「点」を指します。'score' は、これらの 'point' や 'goal' の合計であることが多いです。③の『rule』は、競技の「規則、ルール」のことで、得点とは異なる概念です。

◆補足：『score』は動詞として「得点する」という意味でも非常によく使われます。例文: "The final score of the baseball game was 5 to 3." (その野球の試合の最終スコアは5対3だった。)"He scored the winning goal in the last minute." (彼は最後の1分で決勝ゴールを決めた。)

29.

解答 ①

【解説】

正解は①の「地域、区域、範囲」です。『area』は、特定の境界線で区切られた、あるいは特定の目的や特徴を持つ土地の一部分、つまり「地域、地方、区域」を指す、非常に幅広く使われる名詞です。都市の中の一地区、建物の特定の場所、あるいは学問の「分野」など、物理的な空間だけでなく、抽象的な「範囲」を表すこともできます。他の選択肢は、全く異なるものを指す単語です。②の「空気」は 'air'。③の「芸術」は 'art'。④の「軍隊」は 'army' です。これらも基本的な単語なので、'area' と混同しないようにしましょう。

◆補足：例えば、レストランの「禁煙席」は "the non-smoking area"、都市の「中心部」は "the downtown area"、自分の専門「分野」は "my area of expertise" のように、様々な名詞と結びついて使われます。非常に応用範囲の広い単語なので、いろいろな例文に触れて感覚を掴むのがおすすめです。例文: "This area is famous for its beautiful cherry blossoms in spring." (この地域は、春の美しい桜で有名です。)

30.

解答 ②

【解説】

正解は②の『informed』です。この動詞は、人に対して、特定の情報や事実を公式に、または明確に「～に知らせる、通知する」という意味で使われます。単に話すだけでなく、重要な情報を相手に確実に伝える、というニュアンスがあります。他の選択肢は、それぞれ異なる種類の「伝える」行為を表します。①の『taught』は 'teach' の過去形で、「(知識や技術を) ～を教えた」。③の『spoke』は 'speak' の過去形で、「話した」。④の『ordered』は「～を命令した」です。文脈から、情報を伝達するという意味の『informed』が最も適切です。

◆補足：inform A of B や "inform A that..." の形で、「A に B (情報) を知らせる」という使い方が非常に重要です。名詞形は 'information' (情報) で、こちらは皆さんお馴染みの単語ですね。形容詞形の 'informative' は「有益な、情報に富む」という意味です。例文: "Please inform us of any change in your address." (住所に変更があった場合は、私たちにお知らせください。)

31.

解答 ①

【解説】

正解は①の『mechanical』です。この単語は、名詞の 'machine' (機械) の形容詞形で、「機械に関する、機械の力で動く」という意味を表します。この問題の「シャープペンシル」は英語で "a mechanical pencil" と言い、内部の機械的な仕組みで芯を送り出すことから、この形容詞が使われます。他の選択肢は、それぞれ異なる性質や方式を表します。②の『magical』は「魔法の、不思議な」。③の『manual』は、「手作業の、手動の」という意味で、機械を使わないことを示す対義語です。④の『electronic』は「電子的な」という意味で、コンピューターのように電気回路で動くものを指します。これらの単語は、製品の仕組みや性質を説明する際によく使われるので、対比させて覚えておくと良いでしょう。

◆補足：『mechanical』は、人の行動などが、感情のこもっていない「機械的な、無意識的な」様子を表す際にも使われます。名詞形は 'mechanic' (機械工、修理工) や 'mechanics' (機械工学) です。これらの派生語も重要なので、併せて覚えておきましょう。

32.

解答 ④

【解説】

正解は④の『delicate』です。この形容詞は、物が「繊細で壊れやすい、もろい」様子を表します。薄いガラス製品や、精巧なレース編み、クモの巣などを思い浮かべると、そのイメージが掴みやすいかもしれません。この問題の「ガラスの飾り」のように、優しく扱わないとすぐに壊れてしまいそうなものを表現するのに最適な単語です。他の選択肢は、それぞれ異なる評価を表す単語です。①の

『delicious』は「とてもおいしい」。②の『beautiful』は「美しい」。③の『enjoyable』は「楽しい」という意味です。これらの単語とは意味の領域が明確に異なります。

◆補足：『delicate』は、物の性質だけでなく、色や味が「淡い、上品で繊細な」(a delicate flavor)、問題や状況が「取り扱いの難しい、デリケートな」(a delicate situation)といった、より抽象的な事柄を修飾するためにも使われます。「細やかで、優しく扱わないと損なわれてしまう」という共通のイメージを持っておくと、様々な場面で意味を推測しやすくなります。

33.

解答 ②

【解説】

正解は②の「無料で」です。この表現は、お金を支払う必要がないこと、つまり「無料で、ただで」という意味で使われる、非常に一般的な口語表現です。'free' という単語自体に「無料の」という意味の形容詞の用法がありますが、"for free" という形で副詞句として使われることがとても多いです。他の選択肢は、それぞれ異なる状況を表します。①の「景品として」は 'as a prize'。③の「自由に」は 'freely'。④の「有料で」は 'for a fee' や 'for a charge' となります。「無料」と「自由」はどちらも 'free' という単語に関連しますが、文脈によって意味が異なるので注意が必要です。

◆補足：「無料で」を意味する他の表現として、'for nothing' や 'without charge' があります。これらも併せて覚えておくと、表現の幅が広がります。例文: "You can download this software for free from their website." (彼らのウェブサイトから、このソフトウェアを無料でダウンロードできます。)
"Children under six can enter the museum for free." (6歳未満の子供は、無料でその博物館に入ることができます。)

34.

解答 ②

【解説】

正解は②の「～のために、～が原因で」です。この表現は、ある出来事の「理由」や「原因」を示す際に使われる前置詞句です。"because of ～" と非常によく似た意味で、多くの場合で交換可能です。特に、少しフォーマルな響きがあり、報告書やアナウンスなどで使われることも多いです。他の選択肢は、それぞれ全く異なる論理関係を示す重要な表現です。①「～にもかかわらず」は譲歩を表す 'in spite of' や 'despite'。③「～に加えて」は追加を表す 'in addition to'。④「～の代わりに」は代替を

表す 'instead of' です。文の構造を正確に理解するために、これらの表現の役割をしっかりと区別できるようにしておきましょう。

◆補足：due という単語には、形容詞として「(支払) 期日で」や「到着予定で」といった意味もあります。The train is due to arrive at 10. (その電車は 10 時に到着予定です。) のように使います。この「～する予定」という意味から、「～に帰すべき」→「～が原因で」と意味が発展したと考えると、理解の助けになるかもしれません。例文: "The flight was canceled due to the typhoon." (その便は台風が原因で欠航となった。)

35.

解答 ①

【解説】

正解は①の『happened』です。この動詞は、予期せぬ出来事が「起こる、発生する」という意味で使われる、最も一般的で口語的な単語です。事故、事件、あるいは偶然の出来事など、幅広い事柄に対して使うことができます。他の選択肢も出来事の推移を表しますが、意味が異なります。②の『caused』は「原因となった」。③の『finished』は「終わった」。④の『continued』は「続いた」という意味です。文脈から、出来事の「発生」を表す『happened』が最も適切です。

◆補足：『happen』を使った "What happened?" (どうしたの？何があったの？) は、日常会話で非常によく使われる決まり文句です。また、"happen to A" の形で、「A (人) の身に (何かが) 起こる」という意味でも使われます。例文: "A traffic accident happened near my house this morning." (今朝、私の家の近くで交通事故が起こった。)

36.

解答 ②

【解説】

正解は②の「精選品、選ばれたもの」です。『selection』は、動詞の 'select' (～を選ぶ) の名詞形で、二つの主な意味があります。一つは「選ぶこと、選択」という行為そのもの。もう一つは、注意深く「選び抜かれた物 (や人) の集まり、品揃え」です。この問題では後者の意味が問われています。例えば、お店の商品の「品揃え」や、CD に収録されている「選りすぐりの曲」などがこれにあたります。他の選択肢は、それぞれ全く異なる意味を持つ名詞です。①の「指示」は 'instruction' や 'direction'。③の「正解」は 'correct answer'。④の「提案」は 'suggestion' や 'proposal' です。

◆補足：動詞の 'select' は、'choose' と同じ「～を選ぶ」という意味ですが、'select' の方がより慎重に、注意深く選び出すという、少しフォーマルな響きを持つことがあります。形容詞形は 'selective' (選択的な、えり好みする) です。例文: "This shop has a wide selection of cheeses from around the world." (この店は、世界中から集めた幅広い種類のチーズを品揃えしています。)

37.

解答 ③

【解説】

正解は③の「最善を尽くす」です。この表現は、「自分の持っている力や能力を最大限に出して努力する、全力を尽くす」という意味で使われます。結果がどうであれ、その過程で一生懸命頑張るという姿勢を示す、非常にポジティブで大切なフレーズです。他の選択肢は、"best" という単語が使われていますが、意味が異なります。①「一番好きなことをする」は 'do what one likes best'。②「最高の気分である」は 'feel one's best'。④「一番上手にできる」は 'be the best at doing' や 'can do best' などで表現されます。これらの表現との違いをしっかりと理解しましょう。

◆補足：この熟語の "one's" の部分は、主語に合わせて "my", "your", "his", "her" などに変わります。例えば、主語が 'I' なら "do my best"、主語が 'she' なら "do her best" となります。この変化も重要なポイントです。例文: "I don't know if I can win, but I'll do my best." (勝てるかどうかは分からないけれど、最善を尽くします。)

38.

解答 ③

【解説】

正解は③の『carry』です。この動詞は、何かを腕や背中、手などで支えながら、ある場所から別の場所へ「～を運ぶ、携帯する」という意味を表します。重いスーツケースを手にとって運ぶ、というこの問題の状況に最も適した単語です。他の選択肢も、物を移動させることを表す基本的な動詞ですが、ニュアンスが異なります。①の『bring』は、話し手や聞き手のいる場所へ物を「持ってくる」という、方向性が重要な単語です。②の『take』は、逆に、今いる場所から別の場所へ物を「持っていく、連れていく」という方向性を示します。④の『move』は、より一般的に物が位置を変えること「～を動かす」を指し、必ずしも人が支えて運ぶとは限りません。

◆補足：『carry』は非常に多くの意味を持つ動詞で、店が商品を「(在庫として) 置いている」という意味や、病気などを「(体内に) 保菌している」といった意味でも使われます。また、熟語の "carry on" (～を続ける) や "carry out" (～を実行する) も非常に重要です。例文: "Could you help me carry these bags to my car?" (これらのカバンを私の車まで運ぶのを手伝ってくれませんか?)

39.

解答 ①

【解説】

正解は①の「～に加えて、～の他に」です。この表現は、既にある情報や事柄に、さらに別の情報や事柄を「付け加える」ときに使われる前置詞句です。「A に加えて B も」という形で、A と B の両方が存在することを示します。'besides' とほぼ同じ意味で使うことができます。他の選択肢は、それぞれ異なる関係性を示す重要な表現です。②「～の代わりに」は 'instead of'。③「～にもかかわらず」は

'in spite of' や 'despite'. ④「～の場合には」は 'in case of' となります。文と文、語と語の関係を正しくつなぐこれらの表現は、長文読解や英作文において非常に重要です。

◆**補足**：よく似た表現に、副詞句の 'in addition' があります。『in addition to』が後ろに名詞を伴う前置詞句なのに対し、『in addition』は単独で「その上、さらに」という意味で文頭や文中に置かれます。例文: "In addition to English, she can speak French and Spanish." (英語に加えて、彼女はフランス語とスペイン語も話せます。)

40.

解答 ①

【解説】

正解は①の『thief』です。この単語は、他人のお金や物を、特にこっそりと盗む人、「泥棒」や「空き巣」を指す最も一般的な名詞です。他の選択肢は、犯罪に関連する別々の立場の人々を指します。②の『police』は、犯罪を取り締まり、社会の安全を守る「警察」です。③の『judge』は、法廷で判決を下す「裁判官」。④の『victim』は、犯罪や事故などの「被害者、犠牲者」です。このように、一つの事件にも様々な役割の人が関わっていることが分かりますね。これらの単語は、ニュースやミステリー小説などで頻繁に登場します。

◆**補足**：『thief』の複数形は、"f" を "v" に変えて "es" を付ける "thieves" となります。この不規則な複数形の作り方は、'leaf'→'leaves' や 'wolf'→'wolves' などと同じパターンなので、併せて覚えておきましょう。動詞の「盗む」は 'steal'、名詞の「窃盗」は 'theft' となります。

41.

解答 ④

【解説】

正解は④の「美術館、画廊」です。『gallery』は、特に絵画や彫刻などの美術品を展示、販売するための場所を指します。日本語の「ギャラリー」と同じ意味で使われることが多いです。「美術館」と訳されることもありますが、大規模な総合「美術館」('art museum')と区別して、より小規模な、あるいは特定のテーマに絞った展示スペースを指す傾向があります。他の選択肢は、それぞれ異なる種類の公共施設を指す単語です。①の「劇場」は 'theater'。②の「水族館」は 'aquarium'。③の「体育館」は 'gym' です。これらの建物を表す単語は、街の様子や週末の予定について話す際によく使うので、区別して覚えておきましょう。

◆**補足**：最近では、スマートフォンの写真アプリの中にある、画像を一覧表示する機能も「ギャラリー」と呼ばれますね。これも、たくさんの作品（写真）が並んでいる様子から来た使い方です。例文: "We visited an art gallery in Ginza that was showing works by young artists." (私たちは銀座にある、若手アーティストの作品を展示している画廊を訪れた。)

42.

解答 ①**【解説】**

正解は①の「夫」です。『husband』は、結婚している男性、つまり「夫」を指す最も基本的な単語です。家族や人間関係について話す際には、必ず必要となる基礎語彙の一つですね。他の選択肢も、家族を表す重要な単語です。②の「妻」は 'wife' で、『husband』の直接的な対義語となります。この 'husband' と 'wife' は、必ずペアで覚えておきましょう。③の「息子」は 'son'、④の「娘」は 'daughter' です。これらの基本的な家族の呼び方は、自己紹介や他人の紹介など、様々な場面で使われるので、スペルと意味を正確にマスターしておくことが大切です。

◆補足：結婚している相手、つまり「配偶者」を性別を問わずに指す言葉として 'spouse' があります。また、夫婦一組のことを 'a couple' と言います。これらの関連語も知っておくと、表現の幅が広がりますね。例文: "My husband is a doctor and works at a local hospital." (私の夫は医者で、地元の病院で働いています。)

43.

解答 ④**【解説】**

正解は④の『hurry』です。この動詞は、「急ぐ、急いで行く、～を急がせる」という意味で、何かを通常よりも速いペースで行うことを示します。特に、時間に遅れそうな時や、何かを素早く終わらせる必要がある時に使われます。他の選択肢は、それぞれ異なる移動の動作を表します。①の『run』は「走る」という具体的な動作です。急いでいる時に走ることはありますが、「急ぐ」という心理状態や行為全体を指すのは『hurry』です。②の『walk』は「歩く」。③の『wait』は「待つ」で、逆の行為ですね。これらの基本的な動詞とのニュアンスの違いを理解することが大切です。

◆補足：「急いで！」と相手に促す際には、命令文で "Hurry up!" というのが定番のフレーズです。また、「急いでいる」という状態は "be in a hurry" という熟語で表現します。例文: "If we don't hurry, we'll be late for the movie." (もし急がなければ、私たちは映画に遅れてしまうでしょう。)" "I'm sorry, I can't talk now. I'm in a hurry." (ごめんなさい、今話せません。急いでいるんです。)

44.

解答 ④**【解説】**

正解は④の『delighted』です。この単語は、人が「非常に喜んでいる、大喜びしている」という強い喜びの感情を表す形容詞です。単に "happy" (嬉しい) と言うよりも、喜びの度合いがずっと大きいことを示します。予期せぬ良い知らせを聞いた時や、素晴らしい贈り物をもらった時など、心から嬉しく思う気持ちを表すのに最適な単語です。他の選択肢は、それぞれ異なる感情を表す重要な形容詞です。①の『disappointed』は「がっかりした、失望した」という意味。期待が外れた時の気持ちですね。②の『surprised』は「驚いた」という意味で、良いことにも悪いことにも使われます。③の『relieved』

は、心配事などがなくなって「安心した、ほっとした」という気持ちを表します。これらの感情を表す形容詞は、それぞれのニュアンスの違いをしっかりと理解しておくことが大切です。

◆補足：この単語は、感情動詞 'delight' (～を大喜びさせる) の過去分詞形です。人が主語の場合は 'delighted' (喜ばされる→喜んで) となり、物事が主語の場合は 'delightful' (人を喜ばせるような→楽しい、愉快的) となります。この '-ed' と '-ing' の使い分けは、感情動詞をマスターする上で最も重要なルールの一つです。例文: "I was delighted to hear the news of your success." (あなたの成功の知らせを聞いて、とても嬉しかったです。)

45.

解答 ①

【解説】

正解は①の「部分、区域、売り場」です。『section』は、何か大きなものの全体の中の一つの「部分、区分」を指す、非常に幅広く使われる名詞です。例えば、新聞の「欄」(the sports section / スポーツ欄)、オーケストラの「パート」(the string section / 弦楽器パート)、そしてスーパーマーケットやデパートの「売り場」(the frozen food section / 冷凍食品売り場) など、様々な文脈で登場します。他の選択肢は、それぞれ全く異なる概念を表す単語です。②の「接続」は 'connection'。③の「選択」は 'selection'。④の「方向」は 'direction' です。これらの単語も、それぞれ重要な意味を持っているので、この機会に区別して覚えておきましょう。

◆補足：動詞として使うと、「～を区分けする、セクションに分ける」という意味になります。基本的には、全体をいくつかのパートに分けたうちの一つ、という中心的なイメージを掴んでおくと、様々な状況で応用が効きます。例文: "You can find fresh vegetables in the produce section of the supermarket." (スーパーの青果売り場で、新鮮な野菜を見つけることができます。)

46.

解答 ④

【解説】

正解は④の『immediately』です。この副詞は、時間的な遅れが全くなく、ある出来事の「すぐ後に」や「直ちに」何かが起こることを示します。'at once' や 'right away' と同じ意味で使うことができますが、『immediately』はこれらよりも少しフォーマルな響きがあり、客観的な事実を述べる際にもよく使われます。他の選択肢は、それぞれ異なる時間や様態を表す副詞です。①の『finally』は、長い時間や多くの努力の末に「ついに、ようやく」という意味です。②の『lately』は「最近、近頃」という意味で、現在完了形とよく一緒に使われます。③の『suddenly』は「突然に、予期せず」という意味で、出来事の唐突さを表します。『immediately』が示す「時間差のないこと」とはニュアンスが異なります。

◆補足：この単語は、文頭、文中、文末など、様々な位置に置くことができます。動詞を修飾して、行動の迅速さを強調します。例文: "Please reply to this email immediately." (このメールに直ちに返信

ください。) "The ambulance arrived almost immediately after the call." (救急車は通報後、ほとんどすぐに到着した。)

47.

解答 ④

【解説】

正解は④の「厳しい」です。『strict』は、規則や規律が「厳しい、厳格な」様子や、人が他人に対して「厳しい」態度をとることを表す形容詞です。ルールが明確に定められており、それを厳密に守ることが要求される状況を指します。学校の校則や、法律、親のしつけなどが「厳しい」と言う際に使われます。他の選択肢は、それぞれ異なる人の性格や性質を表す形容詞です。①の「賢い」は 'smart' や 'wise'。②の「親切的な」は 'kind'。③の「面白い」は 'interesting' (興味深い) や 'funny' (おかしい) となります。これらの基本的な形容詞との意味の違いをしっかりと理解しておきましょう。

◆**補足** : be strict with ~ の形で、「～に対して厳しい」という意味でよく使われます。例文: "Our math teacher is very strict about homework deadlines." (私たちの数学の先生は、宿題の締め切りにとっても厳しい。) "My parents were very strict with me when I was a child." (私が子供の頃、両親は私にとっても厳しかった。)

48.

解答 ④

【解説】

正解は④の「姿、数字、図」です。『figure』は、非常に多くの意味を持つ重要な多義語です。まず、人の「姿、体型」や、人や動物の形をした「像、置物」(日本語のフィギュア)を指します。次に、計算や統計などで使われる「数字」という意味も非常に重要です。会社の売上高 (sales figures) などがその例です。さらに、本や論文などで使われる、説明のための「図」や「図表」も指します。このように、文脈によって全く異なる意味になるため、注意が必要です。他の選択肢は、それぞれ① 'feeling', 'sensation'、② 'scenery', 'landscape'、③ 'history' となり、'figure' の意味とは異なります。

◆**補足** : 動詞として使う場合は、「～と思う、考える」や「～を計算する」「～を理解する」といった意味で使われます。"I figured that he would be late." (彼が遅刻するだろうと思った。) のように使います。熟語の "figure out" (～を理解する、解決する) も頻出なので、必ず覚えておきましょう。

49.

解答 ③

【解説】

正解は③の『souvenir』です。この単語は、旅行や特別な出来事の思い出として購入したり持ち帰ったりする品物、つまり「記念品」や「お土産」を指す名詞です。旅行先の地名が入ったキーホルダーや T

シャツ、その土地の特産品などが典型的な例です。他の選択肢も「贈り物」に関連しますが、意味が異なります。①の『present』は、誕生日や感謝の印として渡す一般的な「プレゼント、贈り物」です。②の『prize』は、競争やコンテストなどで勝った結果として得られる「賞、賞品」。④の『reward』は、良い行いや努力に対する「報酬、ほうび」を指します。これらの単語が持つ「何に対して贈られるものか」という背景の違いを理解することが重要です。

◆補足：この単語はフランス語が語源で、「思い出す」という意味の動詞から来ています。旅の記憶を「思い出させてくれる物」と考えると、意味を捉えやすいですね。'gift' や 'present' が、誰かのために買う「贈り物」であるのに対し、'souvenir' は、自分自身のため、あるいは旅行先から持ち帰る記念の品というニュアンスが強いです。例文: "I bought a small statue of the Eiffel Tower as a souvenir of my trip to Paris." (私はパリ旅行の記念に、エッフェル塔の小さな像を買った。)

50.

解答 ④

【解説】

正解は④の『species』です。この単語は、生物を分類する際の最も基本的な単位である「(生物学上の) 種 (しゅ)」を指す、専門的な用語です。互いに交配して子孫を残すことができる生物の集まり、と定義されます。他の選択肢も分類を表す言葉ですが、より一般的です。①の『kind』と②の『type』は、どちらも「種類」という意味で、日常会話で広く使われます。③の『group』は、人や物の「集団、グループ」を指します。生物学的な文脈で、明確に「種」を指したい場合は、『species』を使うのが最も正確です。

◆補足：『species』という単語は、単数形と複数形が同じ形であることに注意が必要です。"one species" (一つの種)、"many species" (多くの種) のように、文脈によって単数か複数かを判断します。例文: "Many species of birds are in danger of disappearing." (多くの種の鳥が、絶滅の危機に瀕している。) "The giant panda is a protected species." (ジャイアントパンダは保護種である。)
